『ふたりのえびす』を読んで

最初はつきあいにくかった大路さんと太一さんでしたが、

えびす舞を練習するにつれて仲良くなっていく二人の友情に、

私は、おたがいに協力するからこそ生まれた友情なのかなと思いました。

（あいみ）

『ふたりのえびす』を読んで

私は、最初にこの本の題名を見たとき、「えびすって何？」と思いました。
読み始めるときは、どきどきしました。読んでみると、主人公が共通語じゃなくて、
方言で話しているところがあったので、分からない言葉もあったけど、
読んでいるうちに分かるようになったから、最初は大変だけど、後は楽でした。
私が一番印象に残ったのは、今までなるべく関わらないようにしていた森さんに
えびすを教えてもらうところです。森さんもちゃんと教えていて、びっくりしました。
また、わたしはこの本を読んで、自分の気持ちをおさえて人の言うとおりにすると、
自分がつらくなることを知ったので、これからは自分の気持ちも
しっかりと出すところは、出したいです。　（はるか）

『ふたりのえびす』を読んで

わたしは「ふたりのえびす」という題名を最初に見た時、「ふたり」の意味は
分かりました。でも、「えびす」ってどういう意味かがわからなかったので、
この本おもしろいのかなとうたがいながら読み始めました。読んでいくと、
「～だべ」とか「～べ」というなれない言葉が出てきて読みにくいと思っていたけれど、
なれてくると、どんどんおもしろくなってきて話の内容も入ってきやすくなりました。
わたしは優希の名前が「大路」というだけで「王子」と呼ばれるのが、
少し気にいりませんでした。でも、太一が「優希」と本当の名前で呼び始めるシーンが、
二人のきずなが深まったと感じて、すごく感動しました。それに、優希と太一が
それぞれ自分キャラをぶちこわしたのも、とても自信のいることなので、
すごいなぁと思いました。なので、わたしもこれからは、何でも自信を持って、
自分で判断して行動したいです。　（みのり）

『ふたりのえびす』を読んで

太一が自分にあてはめられたキャラをまとわず、
自分からキャラを外そうとしているのがすごいと思いました。
僕も転校すると最初はキャラをかぶってしまいがちなので
太一はすごいと思いました。　（だいと）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

ときどきけんかをしたり、みんなで考えたりしながら
トレジャーハンターを進めていくかがやき子ども病院の子ども達が
とてもゆうかんで心に残りました。　（あいみ）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

私は初めて題名を見た時は、とても長いなと思いました。
この本を読んで一番印象に残ったのは、作戦を実際にやるところです。
とちゅうで見つかるかと思ってびっくりしたけれど、後で
それはわざとやったと分かった時は作戦を立てていたことが
バレていたんだと知って、もっとびっくりしました。
私も氷の王女の話の続きが気になっていたので、とっても楽しい気もちになって
読むことができました。私はこの本を読んで、病気になっている人も
私たちと思うことは変わらないんだなと思いました。
またチームワークも大事にしなければならないと思いました。

（はるか）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

私は、こども病院がテーマの本が好きです。

大人にひみつにして何かをするというお話もわくわくするので好きです。

特に心に残った場面は、良志が、自分で考えたお話を

読み聞かせしていたところです。お話の内容と、かがやきこども病院とが

深く関係していて、とてもおもしろかったです。　（まこ）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

このお話は、「かがやき子ども病院」でそれぞれのなやみを持った
子どもたちが協力してお宝をさがす物語です。
私は早弓という女の子に共感しました。
友達がどんどん元気になって、取り残されるような不安な気持ちになりました。
私も他の人よりダメなところがあるので、同じ気持ちになることがあります。
それでも早弓は最後に「元気になりますように」ではなく、
「元気になる！」とてい正しました。それは、病気に立ち向かう
勇気がわいてきたからだと思います。　（こころ）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

本の題名に「トレジャー」という言葉があって興味を持ったので、読みました。
この病院の中にある「トレジャー」は何かなと思ったら、良志のお話だと
いうことがびっくりしました。最後の方は、病院のほぼ全員で
屋上ですてきな景色を見たという場面が一番心に残りました。　（あやか）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

この本の中で、わたしが好きなミッションは 14・15 です。

看護師の風間さんがノートを持っていたり、屋上に向かうシーンが好きだからです。

この本は、読んでいる人がお話の中に入れるような本だと思います。

理由は、本当に自分も入れたように読めたからです。

そして、私が一番びっくりしたのはミッション 10 の「一人脱退、悲しむな」です。

すばるが退院することになり、トレジャーハンターチームの人数が減ってしまうので

びっくりしました。私は、この本を読んで、すごくいいお話だと思いました。

7 人の友情は、切っても切れないような深い友情だと気づかされました。

私もこれから、7人のように友達との友情を深めたいと思いました。　（おとは）

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』を読んで

病院の屋上に行くってなかなか勇気がいるけど、

実行したのがすごい。（ももか ta）

『火星のライオン』を読んで

私がこの本を読んで学んだことは、あたりまえだけれど、
「仲間や友達を大切にすること」です。私はこの言葉を活かして
生活や勉強をがんばりたいと思います。　（ゆみ）

『火星のライオン』を読んで

たとえ地球から他の国とは二度とかかわってはいけないと
言われていても、子ども達はそれにとらわれずに、他の国の
子どもを助けようとがんばる姿に、私はとても
友達を思い合う気持ちが強いんだなぁと思いました。

（あいみ）

『火星のライオン』を読んで

私はこの本で好きなところが二つあります。

一つは、大人たちが病気でも子どもだけで看病していたことです。

理由は、みんな本当は心細いと思うのに、大人の看病をして自分たちで

生活しているのがすごいし、勇気があるなと思ったからです。

もう一つは、くじけそうになって他の国の植民地に行くところです。

理由は、一度ふざけて行った時にこわい目にあったのに、大人たちのために

勇気を出して行き、助けを求めたからです。

二つとも私だったら、絶対できないなと思いました。　（なお）

『火星のライオン』を読んで

だれが列車に乗るのか…みんなが困っている時、

トレイが急に「おれが行く」と言ったところが私はびっくりした。

本当はこわいはずなのに、勇気を出して言ったのがすごいと思った。

私もみんなが困っている時は、勇気を出して

「私やろうか？」と言えるといいなと思った。

（ともか）

『火星のライオン』を読んで

最後、みんなでサイを説得したり、あやまったりするところがおもしろかったです。ストーリーの設定がおどろきました。

（ももか sa）

『火星のライオン』を読んで

僕は、「火星のライオン」を読んで、地球の事は火星の事とは関係ないのに、

他の入植地のへの接触の制限をしたことを不満に思いました。

また、ベルとトレイはおびえていたのに、

他の入植地に行く勇気があったと思いました。

90 年後に現実に本当に火星に住んでいる人がいるのか気になりました。

（かいり）

『火星のライオン』を読んで

私は、題名を見て、火星にライオンでもいるのかと思いました。
でも、じっさい読んでみると、全然ちがいました。この本を読んで
一番印象に残ったのは、ベルとトレイの二人が列車に乗って、今まで
接触してはならないと言われていた外国の人たちに助けを求めに行ったところです。
私は、助けを求めにベルが一人で歩いていくなんて無理だと思っていたけれど、
一回もどりかけても、ちゃんと前に進んでいったからすごいなと思いました。
私だったら、列車の中から出る前に、行きたくないと言っていたと思います。
けれど、この本を読んで、私は勇気を出して行動することも大切だということが
分かりました。これからは、勇気を出して行動するときは、するようにしたいです。

（はるか）

『カンフー&チキン』を読んで

私は最初「あっ！この本おもしろそう。」と思って、この本を読んでいました。
けれど、この本はおもしろいだけでなく、作者の大切な思いがこめられていて、
最後になると、1ページ1ページがとても心にひびきました。
他の人にもすすめて、読んでもらいたいです。　（ゆみ）

『カンフー＆チキン』を読んで

読み始めは、クラゲや三森さんがしつこくて、

少しめんどくさい性格だなと思ってたけれど、

夜明スコーピオンをやっつける時は、

二人がいたからこそできたことだと思うようになりました。

（ともか）

『カンフー＆チキン』を読んで

クラゲと夜明スコーピオンの総長がたたかうところが

とてもおもしろかったです。

（ももか sa）

『カンフー＆チキン』を読んで

僕は「カンフー＆チキン」を読んで、伊倉には夜明けスコーピオンを
たおすという強い気持ちがあるのが分かりました。
松林君や他のメンバーも伊倉のおかげで倒すという気がでてきたと思います。
伊倉の強い気持ちが夜明けスコーピオンを倒すことに繋がったと思いました。

（かいり）

『カンフー＆チキン』を読んで

私はこの本の題名を見たとき、「チキン」はすぐに分かったけど、
「カンフー」は聞いたことがあるけど、あんまりイメージできませんでした。
だから読み始めるとき、どんな話なのかなと思いました。
一番印象に残ったのは、作戦を実行して、財布を返してもらうところです。
なぜかというと、父さんにもらった財布でも、私はこわくて、
とった人に返してとは言えないと思います。
でも、ちゃんと返してって言ったことが書いてあって、とてもびっくりしました。
この本を読んで、私はきちんといやなことは、
相手に「いやだから、やめて」とかの言葉を言えるようにしたいと思います。

（はるか）

『カンフー＆チキン』を読んで

夜明スコーピオンはたくさんいるのに、朝ガエルズは少ない人数でも、

市長や悪者に勝ってすごいなと思いました。

包丁を持ってクラゲたちを追いかけてきた時は、

死んでしまうのではないかなと思ったけれど、

クラスメイトの三森さんが助けていたのが、とても印象に残りました。

（あやか）

『カンフー＆チキン』を読んで

クラゲはちょっと意味不明だけど、とても正義感が強くて、

友達になったら大変そうだけど

毎日がたのしくなるんじゃないかな、と思いました。

（だいと）

『ソノリティ』を読んで

私は題名を見てもソノリティの意味が分からなかったから、
早く読んでみたいなと思いました。読んでみると、ソノリティは
合唱コンクールで歌う歌の題名でした。この本を読んで一番印象に残ったのは、
最後の合唱コンクールの本番で、ソノリティを歌ったところです。
一生けん命歌ったけれど優勝できなかったから、私はちょっと残念だったけど、
早紀たちは全然くやしそうじゃないから、びっくりしました。
けれど、読み終わってしばらく経ったら、私も、みんなと楽しく歌えていたから、
他の人が決めた優勝じゃなくて、自分たちが今まで歌った中で決めた優勝なら
いいと思いました。私も、いろいろなことを一生けん命したいと思いました。

（はるか）

『ソノリティ』を読んで

いろいろな個性のある登場人物が出てきて、おもしろかったです。

早紀が右手をけがして合唱の指揮ができなくなった時に、

岳が代わりにやっていて、びっくりしました。

一生けん命指揮の練習をしていた岳は素敵だなと思いました。

（あやか）

『ソノリティ』を読んで

個性豊かな登場人物が出てきたので、色々な視点で物語を読めました。

みんなの気持ちを一つにして歌ができたので、

「気持ちを一つに」は大切なことだと学びました。　（さとみ）

『ソノリティ』を読んで

合唱コンクールに向けて同じクラス４人の書かれていて、とてもみずみずしく
中学生ってこんな必死でりっぱなんだと分かりました。
今年は中学生になるので、チームワークを意識したいと思いました。

（ゆきな）

『ソノリティ』を読んで

おとなしかった早紀が、みんなと一緒に練習することで、

自分に自信を持ててよかったと思います。

（ももか ta）

『ソノリティ』を読んで

私も、岳と涼万みたいに思いがすれちがったことがあったので、
おたがいが相手にしっとしたり、むかついたりする気持ちはわかります。
でも、それは相手からすると、「勝手にしっとして、むかついて、
自分は何にもしてないんだけど…」となり、相手もまたイライラしてしまいます。
だから私は、この本を読んで、伝えたいことはしっかり言わないと
いけないと思いました。自分に正直に、そして相手にも気持ちよく
受け入れてもらえるように、思いをうまく伝えていこうと思いました。

（ともか）

『マスクと黒板』を読んで

私はこの本を読んで、輝が少しずつ自分の意見を言えるようになっていくのがいいなと思いました。私も来年から中学生になるので、輝を見習っていきたいと思いました。　（ゆみ）

『マスクと黒板』を読んで

立花輝さんは黒板アートをやりたいと思っていたのに
絵があまり上手ではなかったので、なかなか書きだせなかったけれど、
自分に望むことがこわかったことに気づき、
一歩ふみだして、心からいい絵をかこうと決心したところは
とても心に残りました。　（あいみ）

『マスクと黒板』を読んで

コロナが流行した為に、いろいろなイベントが中止になってしまったけれど、
その代わりに黒板アートで学校を盛り上げたことがすごいと思いました。
まだコロナは収束してはいないけれど、
私もこの状況の中でできることで学校を盛り上げたいです。

（しおり）

『マスクと黒板』を読んで

だんだん輝が社交的になっていくところがおもしろかったです。

最後のほうの俳句が一番心に残っています。

（ももか　sa）

『マスクと黒板』を読んで

私は、この本を読んで、黒板アートをしてみたいなと
思いました。私は絵が上手じゃないので、絵が上手に
かける人がうらやましいなと思いました。
この本で、絵があまりかけない人も黒板アートに参加していたので
すごいと思いました。私もいろいろなことに
ちょうせんしたいなと思いました。　（はるか）

『マスクと黒板』を読んで

この話は、コロナと関係している本だったので、

身近に感じました。

黒板アートで、だれかを元気づけるのは、

良い案だなと思いました。　（あやか）

『マスクと黒板』を読んで

最初に「マスクと黒板」という題名を聞いて、今の教室と似ていると思った。
主人公の立花輝は、友達が少なく目立たなかったのが、
次第に仲間が増えていって、すてきだなと感じた。
コロナでマスク生活が続いているけれど、
今だからできることを探すのは良いと思う。　（ふみか）

『マスクと黒板』を読んで

この本を読み、現代のコロナ禍で行事やイベントが中止されていく中、
たった一つの黒板アートで、人々の心が前を向こうとはげましてくれる絵で、
なんだか自分が救われるような気持ちになり、うれしかったです。

（ゆきな）

『マスクと黒板』を読んで

黒板アートを行うことで仲間と協力し、
3位だったけれど、協力したことで前向きになり、
少し明るくなれてよかった。

（ももか　ta）

『リメイク！』を読んで

最初は新しいアイデアを出そうとしなかったり、同じクラブの人を
たよりないと思っていた由希さんが、最後には新しいアイデアを取り入れ、
同じ手芸クラブの人のよいところを見つけられる
よいクラブ長になったところが印象に残りました。
この部分を読んだとき、まるで由希さん自身が、
自分で自分をリメイクさせたかのようですてきなお話でした。　（あいみ）

『リメイク!』を読んで

家族関係やバザーでの問題をすべて解決するし、

ジェンダー平等にも近づくので

由希はすごいと思いました。（ももか sa）

『リメイク！』を読んで

私は初めて題名を見た時は意味が分からなかったです。
この本を読んで一番印象に残ったのは、バザーの時に売れ残りが出ないように
自分たちから売りに行ったり、かみを結ってもらえるようにしたりと
いろいろと工夫しているところです。私だったら、そんなことを思いつかないので、
すごいなと思いました。売り切った時は、私もとてもうれしい気持ちになりました。
何でも最後まであきらめずに工夫してやり続けることは大切だなと思いました。
また、この本を読んで、私も何か作ってみたいなと思いました。
私は今、委員長をやっているので、人の話をちゃんと聞いて、
みんなが納得するようにしたいと思いました。
大変だと思うので、少しずつやっていきたいです。

（はるか）

『リメイク！』を読んで

「リメイク！」は、普段自分では選ばない本だけど、
読み始めたら、どんどん引き込まれて一気に読みました。
一番ワクワクしたところは、バザーを開いているところです。
私もシュシュが買いたくなったし、自分でも作ってみたくなりました。
由希が、莉奈の家でローズヒップティーを飲みながら
一緒に宿題をしているところもいいなと思いました。

（まこ）

『リメイク！』を読んで

この本では由希という手芸好きな女の子が、手芸クラブの
クラブ長になり、「手芸が好き＝女子力高い」とか「男が手芸＝へん」、
「手芸＝だっさい」などの言葉にモヤモヤをいだきます。
そういうことを言う人たちに見せつけてやろうと、仲間とがんばります。
主人公の由希は思ったことをはっきり言う、しっかりもののお姉さんのような
存在です。性格が私のお母さんに似ているなと思って、楽しく読めました。
男と女の差別とかを由希がハッキリ言うとスカッとするし、
まわりの友達や家族との仲が深まっていくところは、
とてもほっこりします。ぜひ読んでみてください。　（こころ）

『リメイク!』を読んで

私が一番気に入ったところは、由希がサッカークラブの男子たちに
「あんたたちに、手芸クラブすごいって言わせてみせるからね!」と宣言して、
バザーの時に本当にそう言わせ、手芸に興味をもってもらったところです。
そのために手芸クラブ長の由希が、バザーに向けて計画書を作ったり、
去年のバザーの時よりも新しいアイディアを考えたりしたのがすごいなぁと思いました。
なぜかというと、もしそれで失敗したら、クラブ長がせめられるかもしれないから、
由希が勇気あるなぁと思いました。私も今、学校で手芸クラブに入っています。
でもこの本の手芸クラブとは全くちがいます。クラブ長もないし、バザーもないからです。
でも、にているところもあります。それは、なかまと協力して何かを作るということです。
だから私は「なかまと協力する」ということは、何よりも大切なことなんだと気づきました。
1学期のクラブは次で最後になってしまうけれど、なかまと協力しながら
最後の手芸クラブを思いっきり楽しみたいです。　(みのり)

『リメイク!』を読んで

男の子だから、女の子だからと決めつけるのではなく、
男女が協力して一つのものを作るというのが
心に残りました。　（あやの）

『リメイク！』を読んで

私は、手芸が好きなので、この本を読んでみました。
「ひかる」は、ミサンガの色合わせや、シュシュのリメイクを上手にして、
みんなにほめられていて、すごいなと思いました。
バザーの商品を全部売ることができた時の気持ちを想像すると、
私までうれしさが伝わってきました！　（あやか）

『リメイク！』を読んで

最初、ひかるは変な人だなと思っていたけれど、
シュシュの色の組み合わせや、最後に思いついた発言がよくて、
意外にセンスあるなと思いました。弟の亮太に、
手芸クラブに男の子っておかしいと言われたときは、由希が
かわいそうだったけれど、「手芸クラブはすごい！」と
言わせてやるというところが、かっこよかったです。

（ももか　tu）

『リメイク!』を読んで

部長になったことでバザーで大変な思いをしたりしたけど、
みんなで協力して成功させられたのがよかったと思いました。

（すみれ）

『リメイク！』を読んで

わたしは「リメイク！」を読んで、心にのこったところがあります。
それは、拓実が「カッコイイのできたぞ！やっぱりオレってスゴいな。
手芸ってけっこうおもしろいじゃん」というところです。
特に最後の言葉が心に残りました。そのわけは、手芸じゃなくても
自分がやっている習い事を「おもしろい」と言われると、とてもうれしいから、
由希のように何回も聞いてしまうのも「分かる」からです。　（おとは）

『リメイク！』を読んで

私は、この本を読んで、最初はクラブ長は大変だと言っていたけど
クラブのみんなに慣れていき、たくさんしゃべれるようになったところが
すごいと思いました。バザーは、去年とちがう物を売るということになって
予算が変わったし、材料費もかかるようになって、最初に考えていた
バザー計画と全然ちがうようになったのに、バザー前までに
しっかり準備したところもすごいと思いました。
主人公の由希が6年生で、自分が4年生だからとはいえ、
自分にできないことをしているなと思いました。　（ゆずは）

『リメイク!』を読んで

手芸について新しい見方ができました。

登場人物のいろいろなアイディアを取り入れた手芸の作品がおもしろいです。

この本を読んだ後、私も何かを作ってみたくなりました。

（さとみ）

『リメイク！』を読んで

学校のクラブで本当におこっていてもおかしくない内容で
グングン読み進めることができました。
字が小さかったけれど、章節毎に分かれていたので、
読みやすかったです。　（こか）

『リメイク！』を読んで

私も手芸クラブに入ったことはあるけれど、りなみたいな親友に
クラブ長を押し付けられるのは、見たことありませんでした。
でも、由希はきちんと言われたとおりクラブ長をやって、
トラブルはちょこちょこあったけれど、それを乗り越えて、
夏休みのバザーではたくさんの人が物を
買っていて良い物語でした。　（ゆきな）

『シャンシャン、夏だより』を読んで

私は、この本を読んで、友達とちゃんと話をするのは
大切だなと思いました。友達とちゃんと話をすると、
今まで分からなかったことが分かったり、
けんかになりにくくなったりするからです。
私は話すことがあまり得意ではないので、これからはなるべく
自分から話しかけるようにしたいです。

（はるか）

『シャンシャン、夏だより』を読んで

農家の子どもの野歩人は、クマゼミを探して、自由研究をやろうとしていました。

自然を使ってする自由研究は、あまりしている人がいないし、

特にクマゼミは見つけにくいセミなので、とてもがんばっている野歩人をみて、

私も無理だと思わず、前向きにいろんなことに取り組みたいと思いました。

この本を読んで正解だったと思います。

とても良かったです。

（ゆきな）

『本おじさんのまちかど図書館』を読んで

ヤズミンは本が大好きなので、私と似ているなと思いました。
ヤズミンは本おじさんのことも、まちかど図書館のことも
大切にしていて感動しました。ヤズミンやその仲間たちは
図書館がなくなってほしくないから、一生けん命努力して
すごいなと思いました。　（あやか）

『本おじさんのまちかど図書館』を読んで

すごい壮大な計画だと思いました。

スライ市長は最低だと思いました。

主人公も親友だったら何を言ってもいいと思っているところが

あまり好きじゃないです。　（だいと）

『本おじさんのまちかど図書館』を読んで

私はこの本を読んで、みんなで協力することは大切だなと思いました。この物語は、みんなで協力をして、一人の人を助けるお話です。私は、みんなで協力すると、すごい力が出せるんだなと思いました。これからは、できなかったことをすぐにあきらめるんじゃなくて、みんなと協力したいなと思いました。

（はるか）

『金曜日のヤマアラシ』を読んで

自分が本当に伝えたいことは、はっきり言わないと

伝わらないんだと感じさせられました。

なぜなら、私も友達と気持ちのすれちがいで、

ウタとルカとホノカみたいになったことがあったからです。

いつも当たり前のように一緒にいた人にさけられるのが、

けっこうショックで苦しいことを知っているから、

ウタがショックを受けた時は共感しました。

学校に行きたくなくても学校に行くウタがかっこいいなと思いました。

（ともか）

『金曜日のヤマアラシ』を読んで

私は、この本を読んで、ちゃんと思ったことを口にして、
顔に出すことは大事だなと思いました。ヤマアラシは、あまり笑ったり
しなかったから、友達ができなかったんだと思うからです。
ちゃんと笑ったら、友達もできたのでよかったなと思いました。
私もちゃんと笑ったりして友達をいっぱい作りたいなと思いました。

（はるか）

『金曜日のヤマアラシ』を読んで

僕は、主人公のお父さんが動物にポーズを決めるのは
良いと思うけど、人間にポーズを決めるのは難しいと思うから、
主人公とそのお父さんはすごいと思いました。

（だいと）

『はじめましてのダンネバード』を読んで

私はこの本を読んで、ちがう国の人でも、その人と
話せるようになろうと努力することは大切だなと思いました。
なぜかというと、その人が努力して日本語を話せるように
なろうとしているのに、自分は何もしないなんてひどいと思うからです。
私も英語とかを早く覚えたり、いろいろなことを
努力したいなと思います。　（はるか）

『はじめましてのダンネバード』を読んで

違う国どうしで言葉も文化も違うけれど、
そのかべを破り、会話をしたりするのが
心に残っています。（あやの）

『はじめましてのダンネバード』を読んで

はじめ見た時は「ダンネバード」とはどういう意味なのかなと
思っていたら、最後の方にネパール語で
「ありがとう」という意味だと書いてあって、びっくりしました。
外国人でも心の中は一緒の気持ちだということは
すてきな言葉だなと思いました。　（あやか）

『はじめましてのダンネバード』を読んで

エリサさんは最初学校に行きにくかったけれど、そうたとゆうりが代表となって
クラスのみんなで協力し、学校へ行けるようにしたことが、すてきだなと思いました。
言葉は通じなくても、心が通じ合えばエリサさんはよろこんでくれて、
仲良くできることはすてきだなと思いました。（ももか tu）

『はじめましてのダンネバード』を読んで

ぼくもこんなクラスだったら簡単に発言できていいなと思いました。

ぼくも弟子入り体験してみたいです。　（だいと）

『はじめましてのダンネバード』を読んで

ネパールから来たエリサちゃんは、お父さんの都合で日本に来たけど、
最初は全然クラスになじめなくて、家の都合でたくさん休んでいました。
けれど、そう太が弟子入り体験で、たまたまエリサちゃんのお父さんの
お店「モモ」に行って、少しずつエリサちゃんとそう太のきょりが
良くなりました。そして弟子入り体験発表会では、久しぶりに
エリサちゃんが学校に来て、最後にはクラス全員楽しい空気になっていて、
とても良い物語だと思いました。国も言葉も関係なく、
友達という存在はいいなと共感できました。（ゆきな）

『すこしずつの親友』を読んで

私がこの本の中で一番おもしろいと思った話は、屋久島の鹿の話です。

私は、この話は本当じゃないかなと思いました。

すごく不思議な話だけど、本当にありそうでこわいなと思いました。

私も伯母さんみたいに不思議な体験をした人の話を聞いてみたいなと思いました。

私も意識して探してみれば、すこしずつの親友がたくさんいるかもしれないと

どきどきわくわくしています。　（はるか）

『すこしずつの親友』を読んで

おばさんは旅をする中で、たくさんの「親友」とよべる人に会ってきたことがすてきだと思いました。「親友」は、長い時間一緒にいることだけを表すのではなく、心が少しでも通じあったりすることなど、たくさん表せるのだなと思いました。私はまだ外国に行ったことがないので、本に出てきたようなきれいな景色を見に行ってみたいです。　（あやか）

『すこしずつの親友』を読んで

わたしは、親友はたくさんしゃべったり遊んだりして、
とってもなかよしになった友達のことを言うと思っていました。
この本を読むと、何日かしかいっしょにいなくても、
何かが通い合っていたりすると親友だよという話を知って
そういう親友もあるんだなと思いました。

（ゆずは）

『トーキングドラム』を読んで

この本は心のよりどころについて考えさせられる本です。

主人公のマッキーは、家でも学校でもうまくいかないことが多かったけれど、

放課後クラスで仲良くなった友達と始めたバンド活動が

心のよりどころになって成長するところが感動しました。

（みのり）

『トーキングドラム』を読んで

子ども教室の高学年４人は、自分たちだけで楽器を作っていて
すごいなと思いました。だんだん４人は気持ちがそろってきていて、
トーキングドラムの演奏が成功した時は感動しました。

（あやか）

『トーキングドラム』を読んで

自分達で楽器を作るのもすごいし、それで演奏して

地域の人に見せるようにするのもすごいと思いました。

（だいと）

『てつほうの鳴る浜』を読んで

私がこの本を読んで一番どきどきしたところは、
長種が張英のやしきから馬に乗ってにげるところです。
なぜかというと、途中で見つかりかけても、馬をおとりに使って
にげきれていてすごいなと思ったからです。
大変なことがおきても、あきらめずに生きていこうと
思うことは大事だなと思いました。

（はるか）

『てつほうの鳴る浜』を読んで

いとが 200 年前から来たっていうのが意外でした。

あと竹崎季長に弟がいたなんて知りませんでした。

（だいと）

『太陽と月』を読んで

私が読んでいちばんおもしろくて読むのが進んだところは
シャトルランをしているところです。私のシャトルランの最高記録の
81 回をよゆうでこえていたからです。自分がすごいと思っていても
自分よりもすごい人がいるんだということが分かりました。
私はそんな人に出会っても、あきらめずにがんばりたいなと思いました。

（はるか）

『忘れもの遊園地』を読んで

私はこの本を読んで一番どきどきしたのは、レミが園長さんと二人きりでお母さんを探しに行っているところでした。途中でレミが自分のことを忘れかけるところが、特にどきどきしました。

最後は園長さんは落ち着いていって、みんなといっしょに帰れたのでうれしくて感動しました。忘れたい記憶を本当に忘れても決していいことばかりではないということがわかりました。

（はるか）

『ラベンダーとソプラノ』を読んで

真子のように、私にも自分が落ち着けたり、どんな時も
行きたくなるような場所がほしいなと思いました。
最初はすすめられて読み始めたけれど、はじめ君が出てきたあたりから
おもしろくなってきて、特にほのかとまた仲がよくなっていくところが
おもしろくて、すぐ読み終わってしまいました。
真子に共感する場面がたくさんありました。

（ともか）

『ラベンダーとソプラノ』を読んで

私がこの本を読んで一番どきどきしたところは、
合唱クラブの部長とはじめ君が言い合いになるところです。
この後どうなるのかきになって、すごくどきどきしました。
合唱クラブの部長みたいに、みんなに
厳しくしすぎないようにしたいなと思いました。

（はるか）

『ラベンダーとソプラノ』を読んで

私は最初、優里が少しかわいそうだなと思いました。

でも穂乃花はやさしさや別の思いがあったので、

穂乃花が悪いわけではないんだなと思いました。

一人一人の思いを聞いてあげることは大切で、ちがうところもありました。

物語のことで無理だと思うけれど、Bar HAJIME や

半地下合唱団に行ってみたり、真子やはじめ君の声を聞いたり、

奈津実さんや亜矢さんのおにぎりを食べたりしたいなと思いました。

（ももか tu）

『黒紙の魔術師と白銀の龍』を読んで

昔と今の出来事が物語を読むカギみたいになっていて
おもしろかったです。この本を読んで、私は
「自分の好きなことは、好きなだけやろう！」と思いました。
他の人にもこの本を読んでもらいたいです。　（ゆみ）

『黒紙の魔術師と白銀の龍』を読んで

初めはクラスになれていなかった啓図でしたが、

クラスみんなで龍のうろこを作ることで、

心が通じて仲よくなれたところを読んで、

私は、相手を思いやる気持ちが仲よくなることにつながったんだなと思いました。

（あいみ）

『黒紙の魔術師と白銀の龍』を読んで

私はこの本を読んで、悠馬に共感しました。友達に
啓図といっしょに折り紙を折っていることが知られたら、
自分も啓図と同じようになってしまうんじゃないかと、
なかなかトカゲのことや龍のことを言い出せなかったけれど、
最後にはちゃんと言っていたので、悠馬はすごいなと思いました。
私だったら啓図みたいになるのがいやで、友達には言わずに
自分の力でなんとかしようとすると思うからです。
私はどうしても友達に言えないことがあるから、何でも言える
友達を作りたいなと思いました。　（はるか）

『考えたことなかった』を読んで

嫌なことが続いても、考えてみてそれを実行し、
乗りこえるように変わっていった颯太がすごいと思いました。
私も思い込みが強いタイプなので、考えたことがなかったことも
考えてみて、変われるようにがんばりたいです。

（しおり）

『考えたことなかった』を読んで

突然現れた猫は、未来の主人公だと思って読み進めていたら、
実は主人公のおじいさんだと知ってビックリしました。
猫は、おじいさんが後悔しないように、アドバイスするために
やってきたのでした。私も未来の私が猫になってやってこないように、
一日一日を大切に過ごしていきたいです。

（いろは）

『考えたことなかった』を読んで

ネコが現れたおかげで、おじいちゃんは変わることができて良かったと思いました。　（あやか）

『考えたことなかった』を読んで

未来の自分が分かるネコが、このお話に登場したけど、
私だったらほしいです。理由は、人生の中で一度失敗したことは、
二度となおらないし残るから、このネコがいると、未来のことを言ってくれて、
今ならまだ間に合うとくいの残らない人生ができるからです。
筆者はおもしろいネコを考えたなと思いました。
とてもおもしろい本で好きになるほどなので、
友達とかにオススメしたいです。

（ゆきな）

『雨の日が好きな人』を読んで

人それぞれ好きなものが違っても

それを分かり合っていくお話の場面が

心に残っています。（あやの）

『雨の日が好きな人』を読んで

幸ちゃん七海は少し会っただけで、気持ちを通じ合わせることができていて、すてきだなと思いました。二人は、お互いのことを大切にしていることが伝わってきました。　（あやか）

『雨の日が好きな人』を読んで

この物語を読み、親が再婚をすると結構差があると分かりました。

見慣れないお父さんや障害をもっている小さな姉。

この生活がどんなに苦しいか、このお話を読んで分かりました。

でも、だんだん読んでいくにつれ、一度も会わせてもらったことのない姉と

七海が会い、たくさん楽しいことをしゃべり、だんだんと家族になっていく

七海のすがたが分かり、とても感動する物語だと思いました。

（ゆきな）

『勇気を出して、はじめの一歩』を読んで

黒人や白人など関係なく、みんな仲良くすることは大切だなと思いました。
ダニエルや健人は、それぞれ得意なことと苦手なことがあるけれど、
おたがい教え合っていたところが、とても良いなと思いました。

（あやか）

『勇気を出して、はじめの一歩』を読んで

最初は、杏は事故にあって以来元気がなく、五年一組からきたダニエルは
口が悪かったです。でも、杏の友達の健人とダニエル・ケントは、
おたがい「けんと」同士でじょじょに友達になっていく物語で、そこから
ダニエルは口が悪くなくなり、杏はダニエルと英語で話せて、とても表情が
良くなったと思います。こういう物語は、実際にも起こりそうだなって思いました。
とても面白い物語で、また読みたいです。　（ゆきな）

『明日の国』を読んで

この本は、主人公のマックスが家族の秘密を知り、ぼうけんに出る物語です。
マックスの住む「サンタマリア」という村の丘に「女王の塔」があります。
その塔には、昔、となりの国からにげてきた「かくれ人」と呼ばれる人々が住んでいたという
言い伝えがありました。「かくれ人」は、戦争や差別からのがれてきた人々です。
マックスは家族が守ってきた秘密を知り、失踪した母親を探すため、一人で旅をします。
最初から少しずつ出ていたヒントが、最後の方でつながる感じがして、
読んでいてとてもおもしろいです。ぼうけんをして、マックスの心は変わっていきます。
マックスは、「明日をつかむ」ことができるのでしょうか？ぜひ読んでみて下さい。

（こころ）